

第21回釜ヶ崎越冬闘争

報告集



第21回釜ヶ崎越冬闘争実行委員会

発刊にあたって

1987年、第18回目の越冬斗争を「日刊越冬縮刷版」として報告して以来、今日に到るまで、毎年、多くの方々の御支援を頂いて越冬斗争を闘いながらも、そのまとめとしての報告集を出版することができませんでした。

山谷斗争への緊急動員ということで出版不可能ということになったときもありますが、主な原因は、釜ヶ崎の運動（闘い）の渦中で生じた、部落、女性、「障害者」、民族差別など様々な諸問題に対して、運動体として積極的に克服してこれなかったからです。今もその途上にあるわけですが、それらの諸問題は、当然のこととして、自分は、釜ヶ崎とは、一体何なのか——をもするどくつきつけ、私達のあり方そのものをも問いつづけてきました。

いまだにはっきりとしたものを獲得することができていません。しかし、だからといって報告集を出さないということにもなりません。

今回、遅ればせながらも、怒りをもっていく場がなく悶々とした日々を送らざるをえない仲間達や、釜ヶ崎の殺伐とした現状のもと、惜しむことなく温かい手をさしのべて下さった多くの支援の方々に対し、何はともあれ、報告だけでもしておかなければ、との多くの仲間たちの反省と熱意にうながされ、出版にこぎつけることができました。

より一層の御批判御指導をお願いします。

(第21回釜ヶ崎越冬斗争実行委員会代表/釜ヶ崎日雇労働組合委員長)

目次

	ページ
発刊にあたって	2
各班報告	3
炊事班 (3~4) ・ 資材班 (5) ・ 警備班 (6)	
文化体育班 (7~8) ・ 人民パトロール (9)	
医療パトロール班 (10~25) ・ 医療班 (27~61)	
〔情宣班は 103~105〕	
日刊えっとう	62
日刊えっとう 12/25号 ~ 1/10号 (62~97)	
1/3号 ほか (99~102)	
週刊えっとう 1/28号 (98)	
仲間からのこえ	106
編集後記	130

炊事班の仕事

越冬闘争のなかで見えない部分を担っている炊事班の仕事について、今までその実態の詳しい報告も出ていなかったの、ひと通りの動きを報告する。

以前そうすいを作っていた年が何年かつづいていた。

77年四角公園でふぐ中毒事件があって8人の仲間が死んだ。

寒い夜、公園でガード下ですごく仲間が、そうすいだけで体力を維持できるだろうか。

にぎりめしをつくることになり何年かつづけてきた。

暗い公園の隅で汚れた手で冷えたにぎりめしを食べる仲間のことを思うと、これでよいのかという声も出ていた。

何とかささやかな弁当、箸で食べられるように計画を練ってみて、越冬実にて提起してみた。

やれるかやれないか、とにかく弁当づくりを始めてみた。

まず場所が必要だ。自室を提供してもらえなくなったが、半月程の間、大量の炊事をやると部屋が破損し、汚れる。

炊事班の作業は、越冬突入の数日前から作業場の設備と掃除から始まる。1年ぶりに使う鍋釜、道具を熱湯で洗う。米、野菜、調味料など材料の搬入、足りない物資の購入と、仕事の合い間に数人が前段作業を行う。

炊事班作業のうち、集中期の三角公園の炊出しは長い間の念願であったが、第20回からは全面的に公園で行うことになった。

炊事班の1日は朝5時か6時から始まる。

医療班の弁当は、医療相談に来る仲間が病院で診療を受ける前に食べる。夜とおしすき腹でこらえてきて、きつい薬は体にこたえる。そうした事を配慮して、飯はやわらか目に炊く。副食についても、カンパ物資の大根、ニンジン、小芋、その他購入物資のあげとうふ、こんにゃく、玉子等を使う。

なるべく温かいうちに食べてもらうように、医療班に引渡す時間ギリギリにつくる。

つづいて鍋釜の洗い、次に出す弁当の下ごしらえ、そうじと休む間もない。せまい場所で大ぜいでやれないので、いつも3人か5人でやる。

集中期になれば医療相談に来る仲間が多くなり、医療班から追加注文が来る。いつ追加がきても、それにこたえるのが炊事班の仕事だ。材料を無駄にせず、いつどのくらい追加が来るか、引取りに来た人に状況を聞いて判断するのが炊事班のコツだ。

ここで各班をお願いしておきたいのは、追加その他緊急行動が必要なときは、できるだけ早く連絡してほしい。

炊事班の作業には学生実の人たちが主として参加してもらっているが、集中期や緊急行動のときは人員不足になる。越冬セミナーに来ている人たちも毎年数回は来てもらえる。支援、連帯、個人と様々な人たちもふえてきている。こうした参加は、炊事班の実態を知ってもらうことにもなり、カンパ物資の内容もより充実してきた。

各班それぞれの活動に集中しているが、他の班の活動との連けいがいまひとつ足りない。そのため一部に感情的になってしまう場面がみられる。自分の班だけがしんどい活動をしていると思わずに、他の班の活動への思いやりが必要ではないだろうか。

第18回越冬の総括のとき提起しておいたが、警備班の弁当その他のあり方について、その後さらにその内容は越冬闘争の理念とかけはなれたものになっていると思われる。

今期、学生実の弁当は1食100円以上のカンパが寄せられるようになった。

月 日	医療班	警備班	バト	諸 行 動	集 中 期	学 生
12. 25		弁当 30				
26	弁当 35	” 30		子供もちつき ｽﾌｯｸ2 = 300		
27	” 40	” 30				3
28	” 35	” 30	弁当160	大中斗争 に約60ｽ = 120		
29	” 50	” 30		臨泊斗争 弁当 50	(三角公園) ◎150 汁150	10
30	” 40			臨泊斗争 弁当 30	◎300 汁200 ◎100汁100	9
31	” 90	弁当 40			みそかそば350 ◎350汁250 ◎100 汁80	4
1. 1	弁当 20 (雑草舎より) 追加 10	” 40			かす汁300 ◎300汁250 ◎100 汁80	12
2	弁当 20 追加 10	” 40		臨泊面会 弁当 50	もちつき ぜんざい300 ◎300汁250 ◎100 汁75	
3	弁当 20 追加 10	” 30	弁当185		ソフトボール ◎ 弁当50 リバ50 ◎350汁220 ◎100 汁80	11
4	弁当 40	” 30		対市行動 ◎120弁120	(布団小屋) ◎250汁100	10
5	” 40	” 30			◎200 汁80	8
6	” 40	” 30		市民館 弁当 90	◎200 汁80	8
7	” 40	” 20			◎200 汁90	7
8	” 40	” 20			◎200 汁90	7
9	” 40	” 15			◎200 汁85	5
10	” 40	” 15	弁当210		◎200 汁95	
12/25 } 17日 1/10	660	460	555	汁 420 ◎ 180 弁当340	弁当 50 ◎ 3700 汁 2355	94

90～91 越冬斗争資材班総括

越冬資材班の仕事は、正月のアブレ期にドヤや臨泊から締め出され野宿を強制される仲間が、野営をするために必要なフトン、マキを集め、そしてそれを補給する任務です。この仕事は、越冬斗争に入る前から入ること、直接仲間と接することが少ないことや、けっこう重労働のため支援に来る人々が目を向けにくい仕事になっています。

今年の越冬もやはり人手不足になやまされながら、しかし、日雇当該の組合から二人出たため、去年を上回るマキを集めることができました。フトンも当初不足を予想されましたが結果的には十分すぎる程ありました。

今後の課題は、もっと多くの仲間が集まれるよう宣伝をすると共に、越冬斗争を日雇自身が自らの命を守る斗いとして、日雇の仲間の結集を勝ち取っていく事前の斗いが必要ではないかと思えます。



警備班報告

警備班も10月釜暴動の地平をひきつぎ、仲間の固い団結で第1期(12月25日～12月27日)における医療センター前拠点、第2期(12/28～1/3)における三角公園拠点、第3期(1/4～1/12)を通し、青カンを余儀なくされている仲間の生命の防衛、権力・西成署、地元ヤー公、シノギ等の越冬つぶし、弾圧をはねのけ斗い抜かれた。

警備班の活動は夜の7:30から始まる。この時間にはすでに多くの仲間が医療センター前に集まってくる。全員で清掃をやり、ゴザを敷いて布団をひいていく。吹きさらしから少しでも快適に寝れるよう、風よけのビニールシート張りが仲間たちの創意工夫で手ぎわよく行われる。

約30分かけてふとん敷きを終えPM8:00に就寝に入る。PM10:00から始まる医療パトロールまで班としての意志一致をとり待機する。

11:30 医療パトの集約に参加し、警備班への参加を呼びかける。

12:00 から早朝4:00まで3班に分けて警備体制に入る。仲間どうしのケンカの仲裁、ふとんがはだけている仲間、調子のよくない仲間がいないかをていねいに見てまわる。

4:30起床、全員でふとんをあげ5:00からのセンター情宣にのぞむ。

6:00～7:00医療班へのひきつぎと集約、解散。

今年も約10名の恒常的スタッフ、そして多くの支援、共斗の仲間の協力の後半就労復帰や、支援の激減で若干、しんどくなったが、やりきることができたと思う。

今年も、今後考えなくてはいけない、また克服しなければならない問題がいくつか生じた。12/27のPM9:30頃ふとん小屋うしろのたき火の所で1人の仲間の行路死亡を見逃してしまったことは、拠点のすぐ近くでおこったことだけにショックも大きかった。センター周辺のていねいな見まわりを徹底する必要があると感じた。

夜警中心型であるため、昼間の諸活動に参加できない限界、また越冬斗争の労働者結集の軸であり、労働者の実働勢力を形成する核である警備班という自負が裏目にて、特に生活面において諸矛盾が噴出した。恒常的に参加した仲間と越冬の意義、警備班としての任務についての議論が徹底できずに忙しさにかまけて、権利意識、またボランティア的なかわりをもつ仲間に対して十分に話ができなかったこと、宿泊体制、財政上の問題で越冬実の他の班から指摘と批判を受けたこと、また誤解をまねくようなことがおこったことは、現在の班体制の限界があるにせよ、今後討論を進め、来年以降の克服すべき課題としたい。

越冬まつりを行うにあたって—文化体育班総括

越冬斗争を10月2日暴動につなげるものどしたい。

越冬まつりと表現しだして5年目ぐらいになろうとしている。

77~85年、医療センター野営地を軸に防衛を強いられて来た越冬斗争は、三角公園拠点、公園の24時間体制を打ち出し、防衛から反撃に転じていった。

雨をしのぎ、暖を取り、仲間達が集まれる空間を自分達で創ってゆく闘いが始まった。

越冬まつりは、その一環として位置づけられる。

野宿させられる現実と、仕事をする現役層の分断がハッキリするなかで、越冬斗争こそ、その分断を乗り越えてゆく質をもっている。

野宿させられる仲間の防衛を医療センター前の野営地でやりきり、病気、ケガの仲間を医療でフォローする。

そして三角公園では、野宿する仲間も現役の仲間も越冬を共に闘いにきた仲間も、地域のおんな、子ども、おとこも、おもしろいからブラッと来た人も、まつりの器の中で釜ヶ崎越冬斗争に参加してゆく。

三角公園は、権力と地域権力(暴力団)が二重に支配する場所。それを我々の側に取りもどしてゆくパワーを、「まつり」「人バト」「野営地」「医療」の総力戦で確立させてゆかなければならない。

そういう自前の闘いの中から真の闘いが生まれ、文化が生まれて来ると思う。

12月31日夜 前夜祭 沖縄の歌とおどり

沖日労の仲間、歌、おどりをやってくれたみなさん、どうもご苦労さんでした。夕方から降り出した雨で、あわてて雨天決行の準備。あわただしかったけれども、冬の雨について燃え上ったき火のように、消すことのできないすばらしいノリでした。

1月1日 新春のど自まん

司会もおつかれさんでした

・マンネリといえばマンネリ、しかしこれを始めないと1年の初めが落ちつかないという。偉大なマンネリ。

24時間体制では、昼に集中するわけにはいかず、やる側は少数になる。

それはやる側の見方で、まつりに来るみんなはもっとおもしろいことやってくれと期待している。

その期待をうらざりつづけて来たのが、マンネリの原因の一つだろう。

のど自まんは90分が良く、それ以上長いとあきてくるし、みじかいと不満が残る。今回は前と後にバンドがひかえ、内容は充実していた。しかし、のど自まん参加者を演出し、達者な人を参加させ、つくりあげてゆくことも大切!

・バンドとの関係は、いつもその場かぎりになっている。「来る者は来い」「演奏さ

せてやる」ということでは、釜ヶ崎で、せっかくノリのある、聴かせる音楽をやっても、その人達の音楽を、また釜ヶ崎へかえすことができない。

・来てくれるバンドの人達と事前に話がもてたら、少しは解消できる。

よるの部

バンド多数に来てもらい、あたたかくもりあがった夜の部でした。

1月2日 もちつき大会

・だいなしバンドが熱のこもった演奏でもり上げ、リズムカルにもち米をむし、米をつき、こね上げてもちに仕上げ、みんなで食べる。やっぱりこうでなかったらねばり強い闘いはできない。

バンド多数、それも釜ヶ崎におもい入れのある人達が来てくれ、ぶつけてくれた。

・催しは文化体育、もち米のだんどりは炊事、まるめるのは全員というのが今までの慣習だったと思う。

その慣習になれきっていたのが問題。

・越冬まつり昼の部にいえることだけれども、炊事班と文化体育班が中心になるので、打合わせをじっくりやり切ることが大切。

よるの部

2日連続で S&N さんに出てもらい、本人達も気持ちよく歌っておどったようです。文化体育の司会の人もしっかりフィーバー、あつい夜でした。

1月3日 ①ソフトボール大会

のど自慢、もちつき大会に引き続いて最後の締めが、このソフトボール大会。このソフトボール大会を終えないと越冬まつりは終わらないのだが、例年にもなく、今回も1日4試合というなかなかハードな内容でした。

今回のソフトボール大会の特徴としては、釜ヶ崎で生活している若い人達と交流試合がもてたという事で、これはなかなか良かったと思います。

(課題)

越冬まつりの1つとしてのソフトボール大会という事からさらに飛躍して、もっと年間を通して、金を使わずに、みんなが楽しめる場が作っていかれたらと思います。

②映画会「五月、夢の風」

※技術的な問題

・・・映写機の管理の仕方が悪くて、字まく、音声の調子が悪かった事は深くおわびしたい。

※映画を上映した側の思いとして

ここ数年来、日雇労働に従事する韓国人労働者が激増するにつれて、こういった韓国人労働者に対する差別意識もまた高まりつつある事は、否定できない事実だと思う。こういった状況を打破していくために、韓国の民衆の生きざま、権力に対する闘いの実情を、より多くの釜の仲間に伝えていこうという思いでこの映画を上映した。

人民パトロール

「医療パトロール」が仲間と共に生き抜く闘いなら、「人民パトロール」は釜ヶ崎の主人公は誰れかを決する闘いだ。

釜ヶ崎は警察が大きな顔をするところではないし、ヤクザが毎日バクチ、ノミ屋をしちゃうところでもない。まして、釜ヶ崎の住人づらをして、早朝から物を売り、野宿している者に水をまく商店主がいるような所ではない。

ここは労働者の街、子供たちがおっちゃんらとあそべる街、すっぽりぬけたものを取りもどせそうな街、荒波にきたえられたたくましい女たちがいる街だ。

三角公園を拠点に胃ぶくろを満たし、暖をとり、1年に1回数百人の仲間とパトロールをする。

なんば、ウメダ、天王寺、四天王寺は釜ヶ崎から追われ、その日の糧と夜つゆをしのぐために来た仲間が多い。

「人民パトロール」の目的は、釜ヶ崎を労働者、子供、女、野宿者で制圧する。なんば、ウメダ、天王寺へくり出し、野宿する仲間をはげまし防衛することにある。

「人パト」が始まったのは、三角公園拠点化を打ち出した時と同じ85年になる。

83年、横浜の山下公園で寝ていた3人の野宿者を「ブータロー狩り」「きたないゴミをそうじ」といって殺した— 横浜事件をきっかけに大阪でも調査したところ、ウメ地下、にじの街、天王寺公園などでサラリーマンや中高生が差別襲撃しているという事実がわかった。しかも、何々博や皇族が大阪へ来る時には必ず『「浮浪者」実態調査』なるものをして、公的に、ケイサツ、企業、ガードマンを動員して追いちらしてゆく。

働けなくなった人、様々な要因で金をかせぐことができず野宿せざるを得ない人達は私達の仲間だ。この仲間達を孤立させるのではなく、共に生き抜き、差別襲撃から防衛し、勇気づけるのが、「医療パトロール」であり「人民パトロール」だ。

「医療パト」なくして「人民パト」なし、「人民パト」なくして「医療パト」なし!



21回釜ヶ崎越冬斗争パトロール班

野宿している仲間たちへ!

われわれ釜ヶ崎越冬斗争実行委員会は、今年も21回目の越冬斗争を12月25日~1月10日の期間闘います。

越冬斗争の間はつぎのようなことを行なっています。

- ☆ 毎日 朝 8:00 ~ 医療セター前で医療相談を行います。
- 夜 8:00 ~ 医療セター前でふとんをしいています。
- 夜 10:00 ~ 釜ヶ崎地獄内、周辺を医療パトロールでまわります。

- ☆ 12月29,30日 大阪市の臨時宿泊所受付日。全員入ろう!
- ☆ 12月29日~1月3日 集中期。三角公園でたき火、鍋、Xmasツェレ、人民パトロール、野宿をしながら闘います。
- ☆ 1月1日~1月3日 越冬まつりで、のど自慢、もちつき大会、ソフトボール大会を行います。また、衣料も配ります。
- ☆ 1月4日 大阪府、市へ抗議行動を行います。
- ☆ その他、文化活動として、映画上映、また、労働相談受けつけを行います。

くわしい内容は、そのつど、ビラでお知らせしますので、よろしくご期待ください。

仲間たち! われわれは、冬地獄の中で、日雇労働者を、身殺しにする敵(資本)の攻撃に、怒りの声をあげ、そして、短い期間ではありけれど、野宿をよぎなくしている仲間、命を預けるための闘いをする。

ともに闘い、がんばっていきましょう。

連絡先

大阪市西成区萩之茶屋 2-5-23
釜ヶ崎解放会館 2F 釜ヶ崎日雇労働組合 受付
21回釜ヶ崎越冬斗争実行委員会

☎ 06-632-4273

21回釜ヶ崎越冬闘争 臨泊総括及びパトロール班活動総括

パトロール班

就労状況（現金）から【図1参照】

越冬闘争総括の一区切りとしてこのほぼ10年間をとりあげる。

10年前の1981年は釜の就労状況（現金）からみるとつぎのようである。

世界的な石油危機による1974年の釜でのどん底のアブレ期を経て、そのあと政府の不況対策、好況投資の大幅増などで一時就労は回復したものの1978年に降また景気が落ち込み1981年には、再び厳しいアブレ地獄に見舞われた。さらに、ここに行政改革攻撃が追い打ちをかけた。13回越冬時（1982）以降景気が回復し、以後1986年からの空前の好況へつながっていく。

ちなみに13回越冬時のメインスローガンは「断て、アブレ・病苦・差別のくびき」である。13回越冬時から今越冬まで、いわば地獄のアブレ期から抜けだして好況へつながっていくほぼ10年間の時期を通して野宿状況、臨泊関係と絡めてみていく。

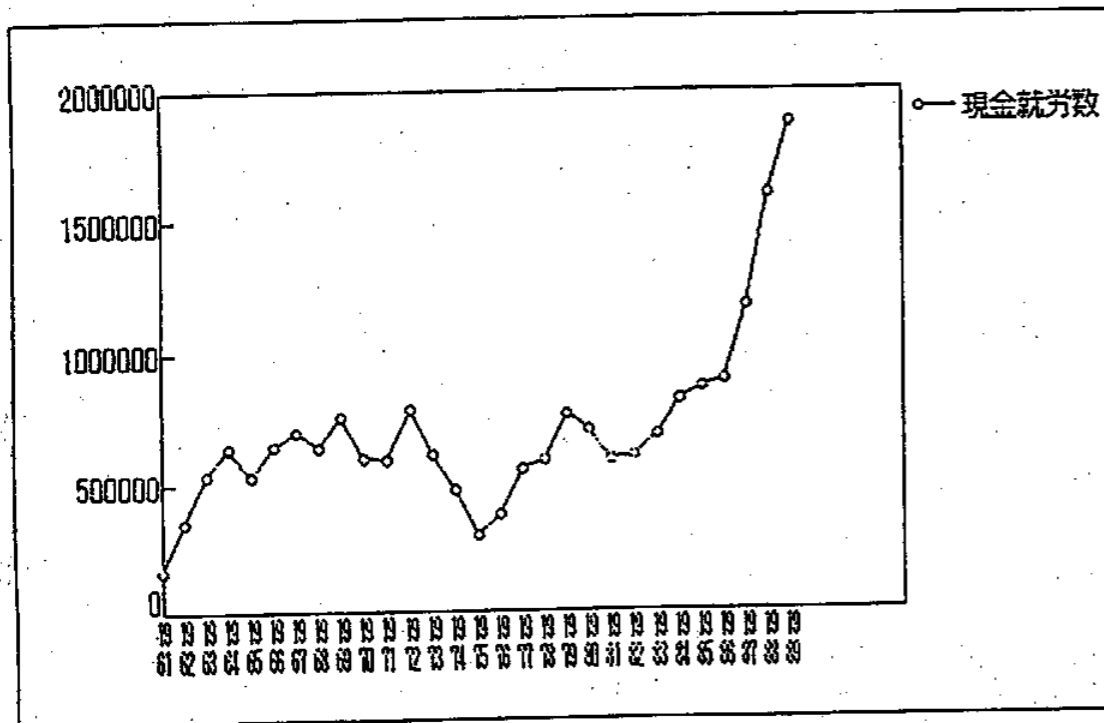


図1 1961～1989年の現金就労数

臨泊闘争総括【表1、図4参照】

大阪市は、12回越冬時（1981）までは2000名の受け入れ計画を出し、それに対しほぼ満杯の数を入所させてきた。中曽根行革の本格化する13回越冬時から計画そのものを1400名にせばめ、14回越冬時には888名と一挙に入所数を切り縮めてきた。また同時に、それまで3日間の市更相の正月休み時には医療センターで診察を受け、紹介状を受け取った仲間ほぼ全員が自彊館での臨泊扱いで入寮（入院）できていたが（正月3日間で200人ほどが入寮・入院できた）、それもこの14回越冬時から打ち切られた。当然、この年の冬は釜ヶ崎の中は多くの野宿者数となって現れてきている。この年の、たとえば1月3日には476名もの仲間が医療センター前の布団に寝ている。

この多くの野宿者数にあわてふためいた大阪市は、翌年の15回越冬時は、12月はじめから自彊館とともに野宿者のアリの的な事前カリコミ（事前保護）を行うなど小手先の対策を弄してくる。しかし削減状態はそのまま年度を追って続いて行く。17回越冬時（1988）までは900台で推移し、以後18、19、20越冬時は700台になっている。今越冬で800台になっているとはいえ、切捨て基調には変わりはない。

問題は、受付に並ぶ仲間の数の減少である。受付に並ぶ労働者の数が減っているのは、大阪市の「力説」するように、仕事が「就労数が多い」からばかりではない。いくら釜に仕事があるといってもパトロール班の野宿者集計からわかる通り、野宿せざるおえない仲間は少なくない数で確実におり、それは1988年（17回時）ぐらいからとくにはつきりしてきている。表1をよくみるとわかるが、越年対策で大量の切捨てのあった翌年は受付に並ぶ仲間の数が目だつて減っている。大量切捨てのあった14回時の翌年は面接総数がぐんと減っており、以後減りっぱなしである。（大量切捨てのあった14回時以降、野宿者が市内へ散らばって行ったり、また、飯場へはいるなどの自衛手段が取られていると思う）。これからみて、大阪市の切捨て――受付に並ぶ仲間の数の減少との関係が明白である。

表1 年度別臨泊入所数等

年度	越冬	計画	面接総数	入所数	南港	その他	備考
1981	12	2000	2454	1973	1544	429	
1982	13	1400	2247	1377	1133	244	
1983	14	1400	1913	888	657	231	大量切捨て
1984	15	1400	1396	919	752	167	面接数減少
1985	16	1300	1468	945	750	195	
1986	17	1300	1380	937	750	187	
1987	18	1300	1058	754	610	144	さらなる切捨て
1988	19	1300	855	724	568	156	
1989	20	1300	881	745	616	129	
1990	21	1300	922	877	697	180	

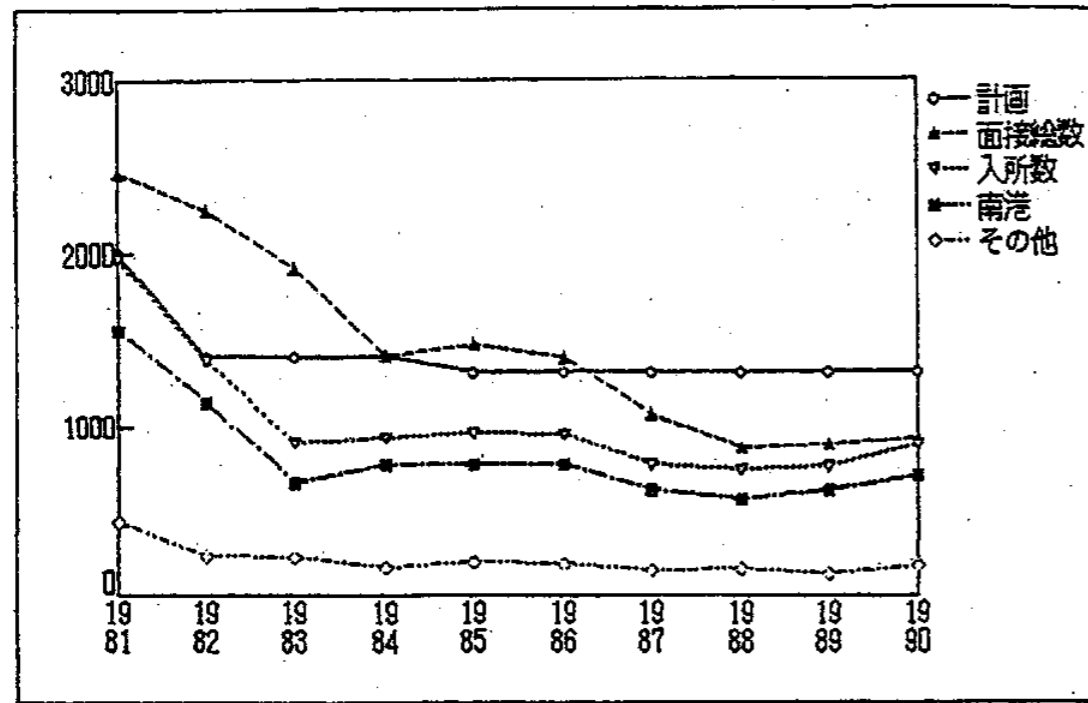


図4 年度別臨泊入所数等 (グラフ)

切捨てはどのような手段でやられているのか。これは、まぎれもなく、大阪市の差別的な面接にもとづいた不当却下によっている。越冬実態は臨泊受付結果の仲間からの詳細な聞き取りを18回越冬時から組織的に行ってきた。これによって大阪市役人の釜ヶ崎労働者に対するあからさまな差別・蔑視が入所選別の根底にある実態がよくわかる。労働者の困難な状態をよく見もせず、一片のマニュアルで機械的に差別選別——不当却下を繰り返していきやり方はまさに殺人行政そのものである。19回時は、越冬事前に市民政局に対しこの差別に基づいた面接と不当却下に対する抗議申し入れを行っている。大阪市の差別に基づいた越冬対策の結果、仲間が「あそこについても話にならん」と背を向けていく傾向がはっきり見える。19回越冬時以降は受付に並ぶ労働者数が1000人を割っている。南港宿泊所の収容数は1100人であり、そこに、受付に並んだ労働者すべてを入れたとしても充分収容できるのである。南港にガラアキのスペースがあるにもかかわらず、それでもなお不当却下を繰り返す、この市の不当なやり方は腰をすえて追及していかなければならない。

したがって今回却下率が少ないといっても手放しで喜ぶわけにはいかない。受付に並ぶ数が少なければそれだけ向こうは容量的に余裕があるから、容易に入所させることができるまでのことである。

さらにまた、臨泊受付にならぶ仲間の数が減った大きな原因の2番目は、やはり、差別にもとづいた臨泊運営に対し、多くの仲間が嫌気がさしていることにある。釜から遠く引き離された南港、収容所さながらの機動隊・ガードマン常駐、生活・医療面での不備・・・この保安処分的な現状から「あそこに行くよりは三角公園でみんなと一緒にアオカンしていたほうがましや」という仲間の声もよく聞く。また臨泊に入っても途中から抜け出してくる仲間もいる。こうした大阪市の差別的な面接体制と、臨泊の運営体制に対し、釜の労働者が当

然の権利として入所し、安心して生活できる宿泊施設を勝ちとるため、市を追及する闘いを強めていかなければならない。

同時に越冬実の側としてもこれまで取り組んできた臨泊闘争の中味を再点検する必要があると考える。臨泊の差別的な中味に対する仲間の「しらけ方」があるにもかかわらず、いま、「全員入所を勝ちとろう」、「それでもアオカンするよりはまし。屋根、めし、風呂がある。なんとか正月は越せる。」という仲間へのよびかけしかなしえていない。「釜の労働者の当然の権利」をより目に見える形で実現するため、具体的な取り組みを進め、釜の仲間にもしめしていかなければならないと考える。

いま、就労状況を見ると、それまでの大幅な仕事の出ぐあいが1990年度はかげりがでてきている。【図2、図3】 仕事の出ぐあいの下降がそのままアプレ地獄——野宿者せざるおえない仲間の増大へとつながっていく状況で臨泊闘争への取り組みに本腰を入れていかなければならないと考える。



图2 1990年度月别(现金)求人紹介状況

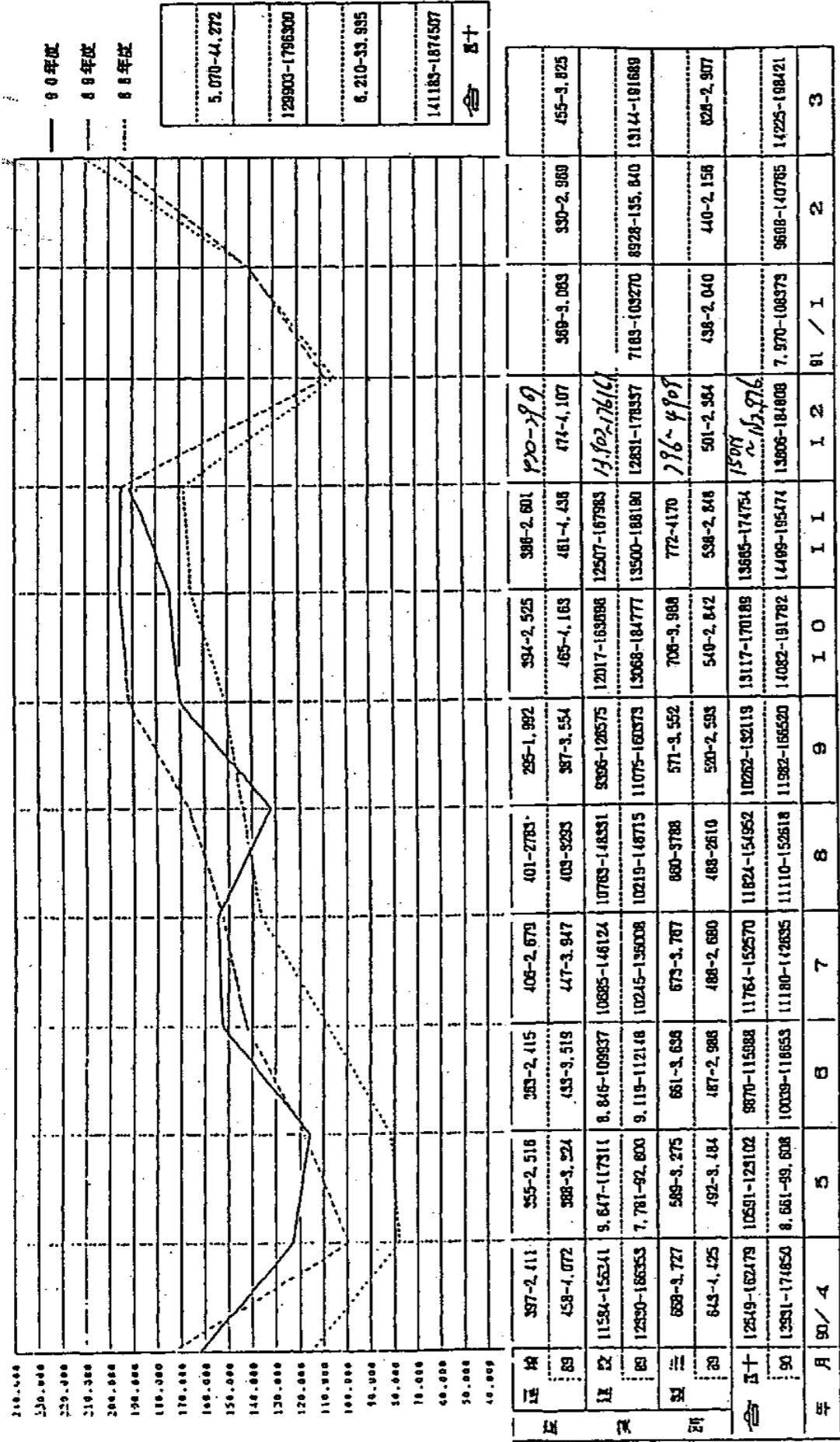
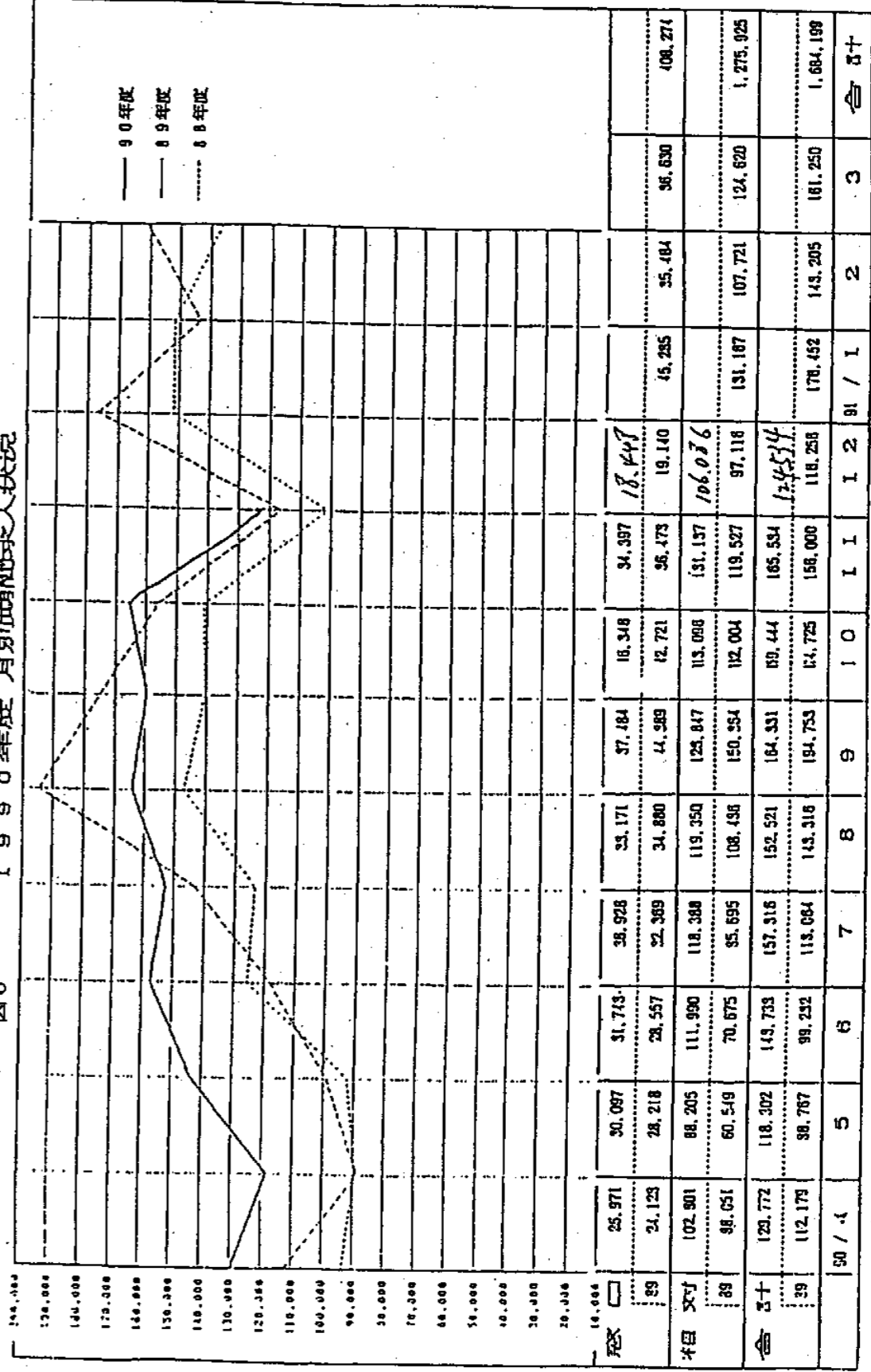


图3 1990年度月别(借入金)求人紹介状況



パトロール活動総括

1. はじめに

1982~1990 (今越冬) までの9年間のパトロール班が把握した野宿者数を集計した。

数字はあくまで絶対的なものではないにしろ一定の期間を通してみると、ある傾向をつかむことのできる目安となる。集計に使ったデータは、区域としては、地区内(南まわり、北まわり、医療センター、三角公園)、そして期間としては、年度ごとに比較するために12.25~1.10までのものとした。

2. 年度別集計からみて【図5参照】

図5に掲げた年度としての1982(13回越冬時)~1990(今越冬時)は、73年の第一次石油危機につぐアプレ地獄にみまわれた1981,2年から、間に行革攻撃をはさみながらも、就労が上昇していく過程の時期にあたる。

野宿者数の傾向をみると、14回越冬時(1983:この14回越冬時というのは行革攻撃のなかで、大阪市の越冬対策における大量切りすてのあった年である)をピークにして、ゆるやかに減っていつている(仕事の出ぐあいの上昇とは逆に)。地区内の野宿者数の傾向をよくあらわしているのは越冬拠点の一つである医療センターに寝る仲間の数で、その年の野宿者の全体数に大きな影響を与えている。路上の野宿者については、そう変化はない。

1990年は昇りづめだった就労にかげりがみえはじめてきている。これから釜で仕事が減ってくるとともに、野宿者数の増加につながっていくと思う。

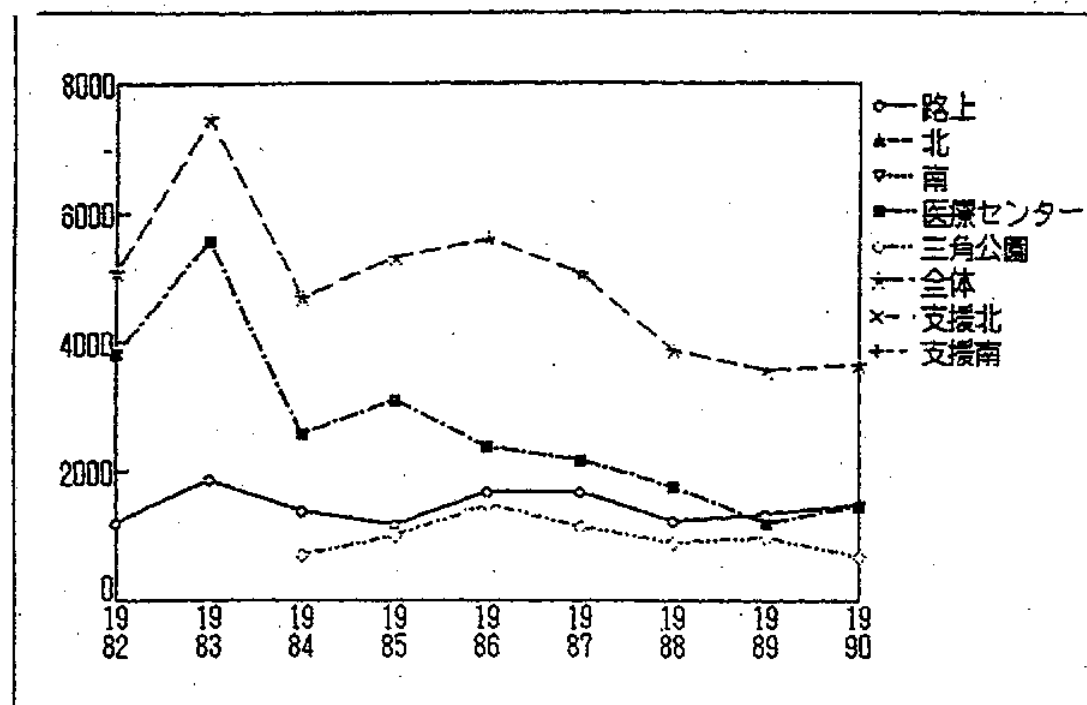


図5 野宿者数の年度別集計

3. 各越冬別のグラフからみると【図6~14参照】

13回時(1982)は、石油危機につぐ2番目のアプレ地獄からまた就労が上昇していくスタートの年度である。やはり1月4日すぎて野宿者は減っていくが、それでも10日あたりでもなお多い。

14,15,16回時と(就労が上昇していく途上の年度)、センターがあいて仕事の始まる1月4日すぎると、野宿者は減っていつている。しかし17回越冬時から1月4日すぎても野宿者数は減らずに横ばい傾向になっていく。これは医療センター前のふとんに寝る仲間の数についても同じで、野宿する仲間が固定しいつているといえる。

14回越冬時は空前の野宿者数であった。これは臨泊総括のところでも述べたが、この年、大阪市の越冬対策である臨泊入所の大量切りすてが行われており、1月3日の医療センター前には478名もの仲間がぎゅうぎゅう詰めで寝た。このときは労働センター裏手の軒下の端から端まで使い、道路も一車線分まではみ出してふとんをしくという状態であった。

15回越冬時から集中期に三角公園での野営の闘いに打ってでた。したがって集中期は医療センター前に寝る仲間の数は減っている(三角公園は多いが)。固定的に野宿せざるおえない仲間が、集中期が終わっても医療センターで寝るというパターンになっている。この年から、市内に仲間が散らばって野宿しだしたのが目だつ。また、冬場の間、飯場の入っている仲間も目だちだした。いずれも臨泊切捨てに対する自衛策である。

17回越冬時くらいから、はっきり、働きたくても働けず野宿せざるおえない仲間の存在が目だつてきている(仕事があるにもかかわらず)。またこの年は悪名高い天王寺博覧会が行われ、天王寺公園及びその周辺で、市土木局、警察、また環境浄化をすすめる一部住民による差別的な野宿者排除が露骨に行われた。

18回越冬時から、パトロールは地区内、地区外同時にまわり始めた。野宿している仲間が地域住民、警察、行政によって寝場所を追われ、拡散していく状況が目だっている。周辺を含め歪ヶ崎化していつているといえる。差別襲撃を受けた野宿者も多かった。また三角公園も、環境浄化と称する見せかけだけの整備により、一段とさびしくなった。

19回越冬以降、全体的にみて野宿者数は少なく、好況の中で高齢、病弱の仲間も仕事についている。しかしそれでも野宿せざるおえない仲間は、17回越冬時から目だちだしたように固定化しており、越冬が終わる1月10日ギリギリまで医療センター前のふとんで寝ている。

こうした固定的に野宿せざるおえない仲間の数は、今後も高齢化が進んでいくとともに増えこそすれ減るといえることはないと思う。むしろそれまで好況に支えられて仕事についていた高齢・病弱の仲間も、ここ数年のうちに予想される就労の落ちこみ、それにとともなうアプレとともに野宿を余儀なくされていく。

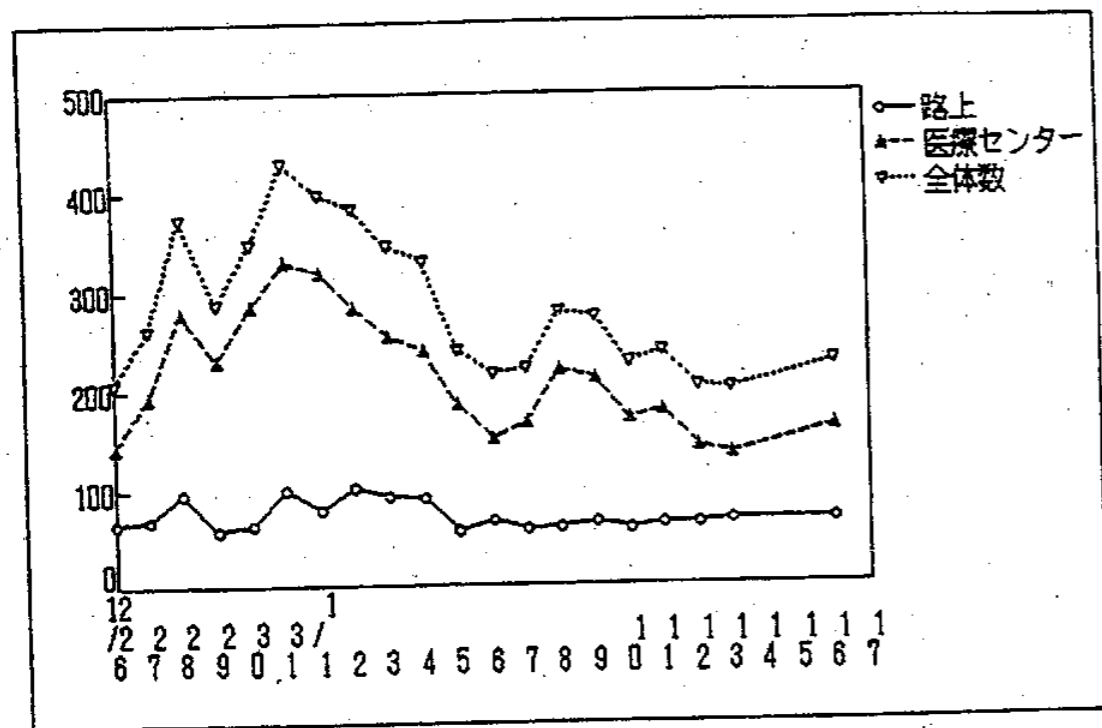


図6 13回越冬時の野宿者数（地区内）

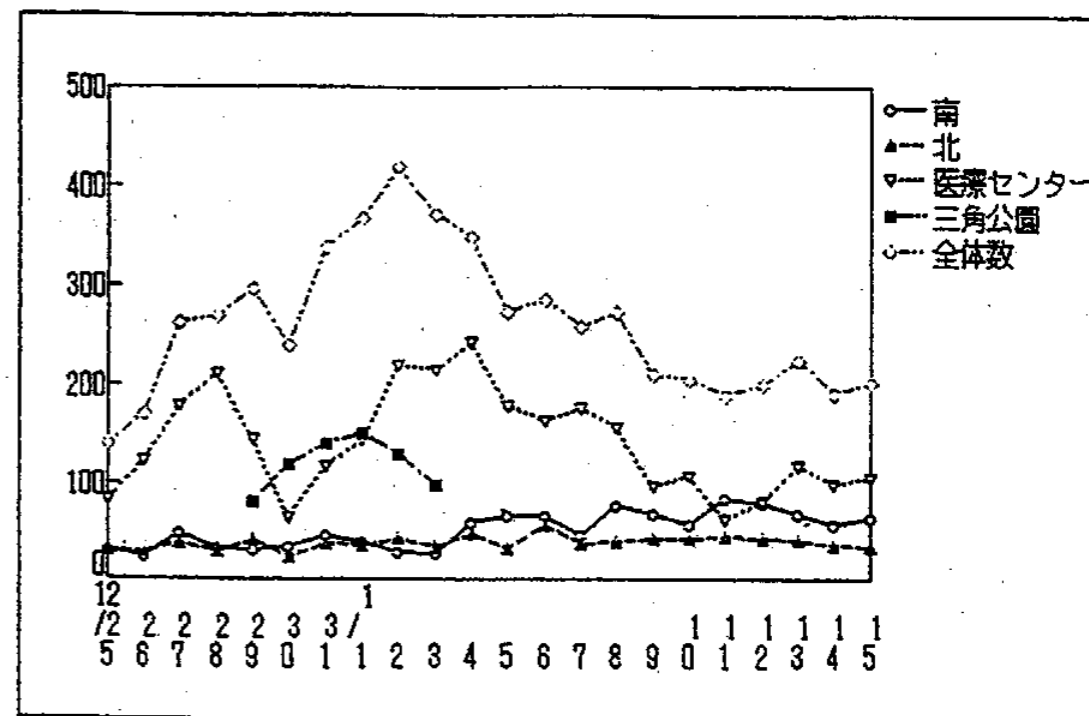


図8 15回越冬時の野宿者数（地区内）

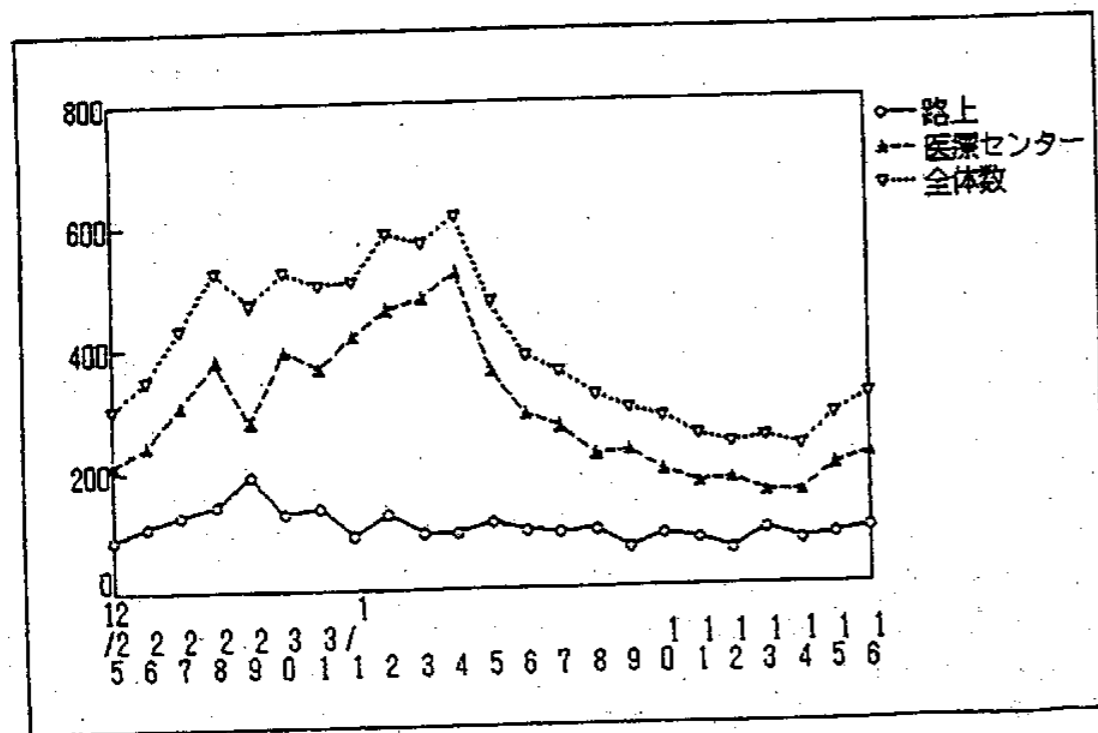


図7 14回越冬時の野宿者数（地区内）

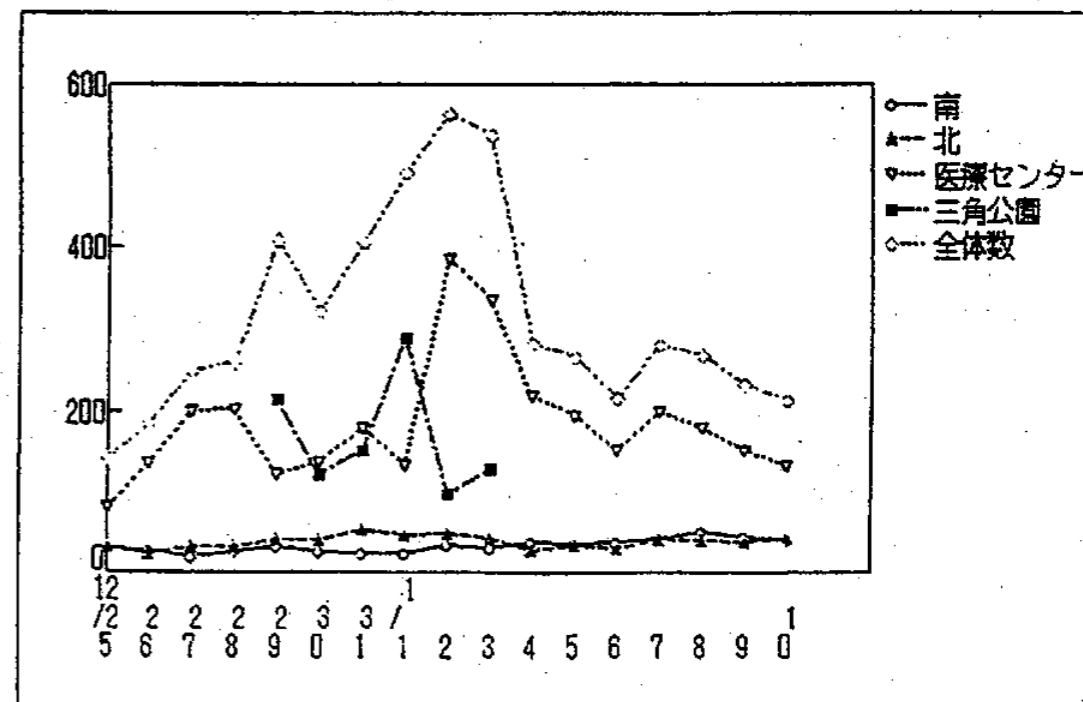


図9 16回越冬時の野宿者数（地区内）

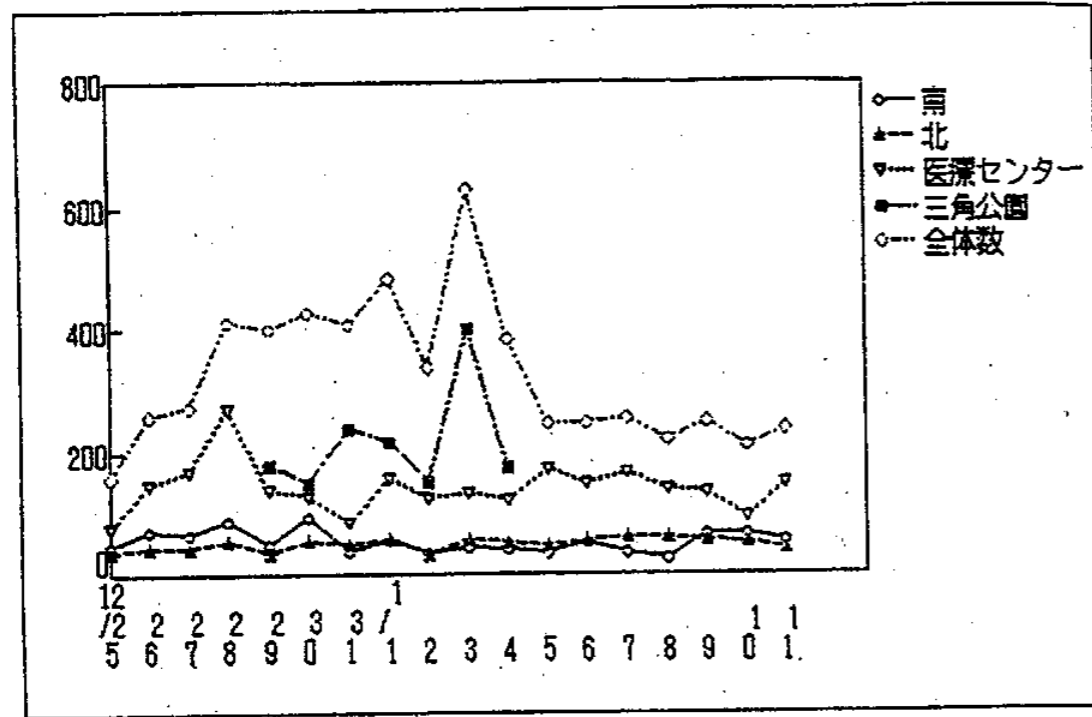


図 10 17回越冬時の野宿者数 (地区内)

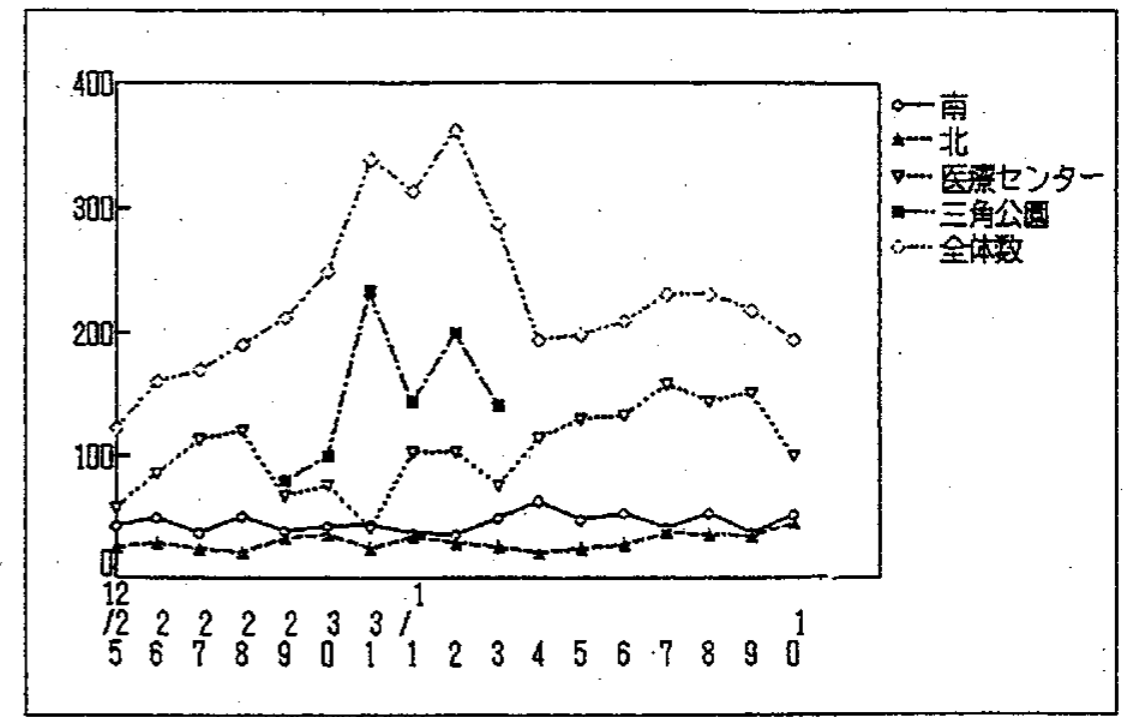


図 12 19回越冬時の野宿者数 (地区内)

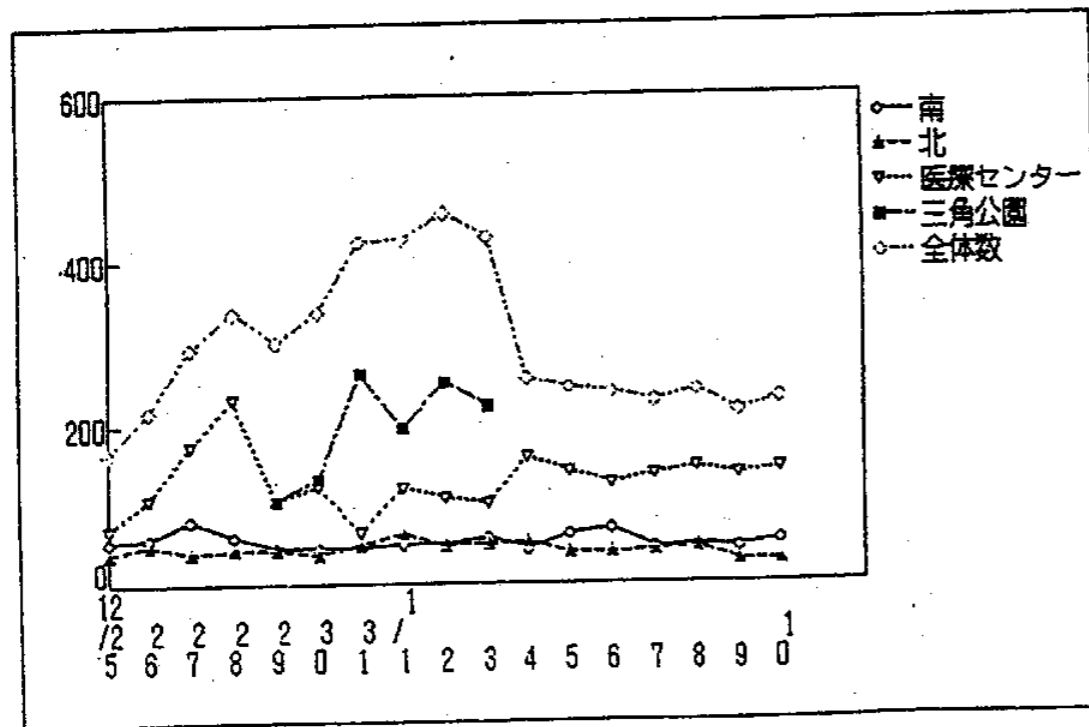


図 11 18回越冬時の野宿者数 (地区内)

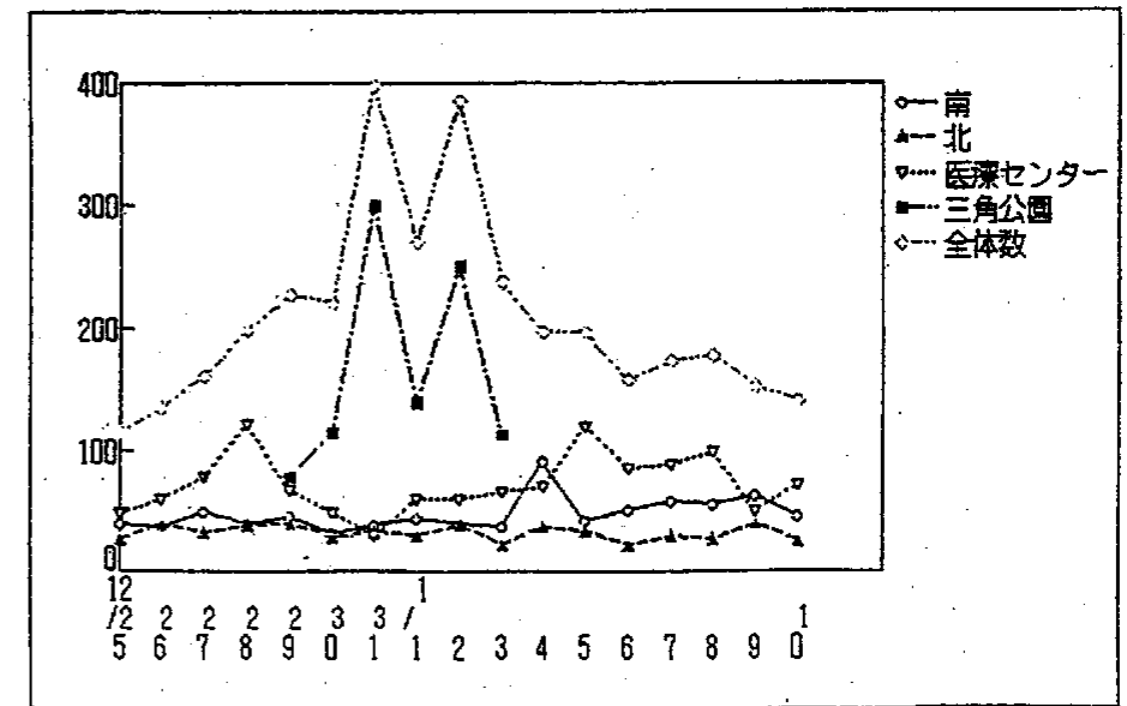


図 13 20回越冬時の野宿者数 (地区内)

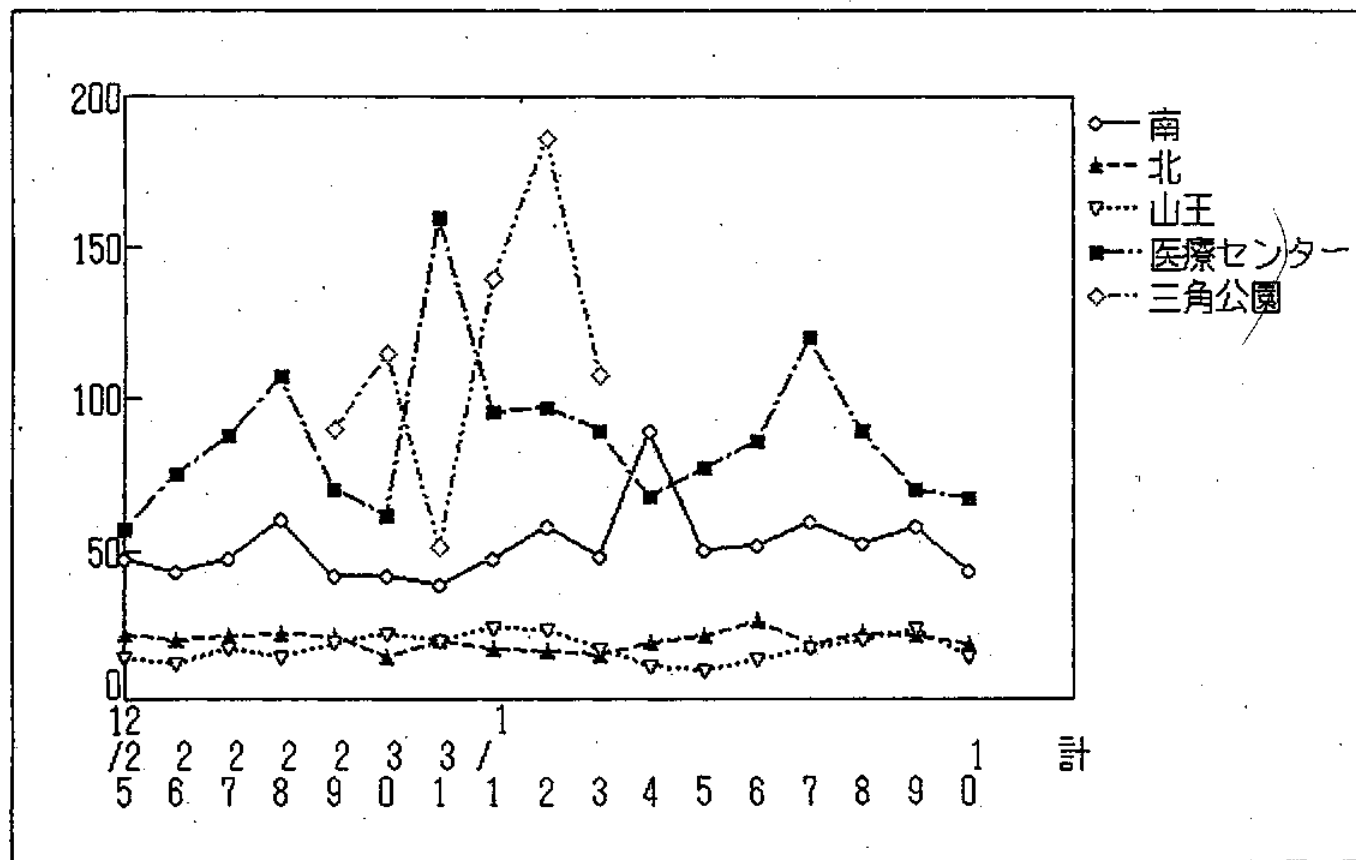


図14 21回越冬時の野宿者数(地区内)

越冬は、「野宿者の命を守る闘いである」といつてきたが、パトロールをし
てずっと路上で生活をしている人たちに、私たちが「何かできるのだろうか？
守るなんてできないなあ」という疑問や、「いや、かえって、もらうものの方
が多いんじゃないか」という思いの方が強い。そんななかで、越冬前にパト
ロール班で、「ありのままを生きるために一障害をどうとらえるか」(月刊地域
闘争)を資料に学習会を行った。

パトロールで救急箱を下げてまわり、救急車を呼んで走り回っているが、た
だ治療の仕方を覚え、専門的な知識だけ増えても、また、ただ病院に送っても、
「治してあげる」とか「やってあげてる」というごうまんな姿勢に陥っていく
危険性があるんじゃないか……。私たちの側の姿勢をさらに問い治していかな
ければならないのではないかと、学習会の中で深く考えさせられた。

その他、今回のパトロール活動の中からでてきたことは、つぎのような事柄
である。

- ① 越冬実には参加しづらくても、何かやりたいという意志をもった釜の仲間
はいる。パトロール活動にも何人かがパト途中から参加したり、野宿している
仲間のいる場所をしらせにきてくれたりしていた。
- ② 今回は、自転車でもわれなかつた日もあった。コースを見直す必要がある。
- ③ 前回から使用した内服薬「だらにすけ丸」は、利用する仲間にとって安心す
るようだ。

- ④ イズミヤ付近の歩道橋にフェンスがはられ、立ち退きビラもはられて、野宿
者の追い出しをはかっていた。
- ⑤ パトロール前のミーティングで手渡す「心得」については、パトロール班と
して自己批判も必要。わかりきっていることを説明することは相手に失礼な部
分もある。また、野宿者のことを解説しすぎていることもある。

4. 今越冬のパトロール活動総括

今越冬のパトロール活動も、越冬実メンバー、釜ヶ崎労働者、そして、のべ
767名にもものぼる支援の団結でやりきった。活動に関わった多くの人たち、どう
もご苦労さんです。

今越冬のパトロール活動では、まず事前に3回の会議を開き、コースのチェ
ックを中心に検討をおこなった。そのなかで、今回はパトロール地図の全面書
きかえを行い、また、コースについても北まわりコースの一部修正と、南まわ
りコースに山王方面を追加した。パトロールについては、例年どうり地区内は
北まわり・南まわりを毎日まわった。また一斉にまわる日を決め、周辺も含め
て、ビラ、弁当を配りながらまわった。(今年も炊事班の協力に感謝します)。

野宿している仲間の状況については、北まわりにおける野宿者が減っている
のが目だつたが、一昨年、昨年と、路上、医療センター、三角公園とも基本的
に変わっていない。好況下で高齢者、病弱者とも働ける仲間は仕事について
いるが、その中であつて、それでも働けない仲間が固定化している。この3年間
の越冬で把握した野宿者数はほとんど変わっていないことを見ると、このこと
がよくわかる。この数は、仲間の高齢化、釜の就労にかげりが見えてくると
ともに、さらに増えていく。

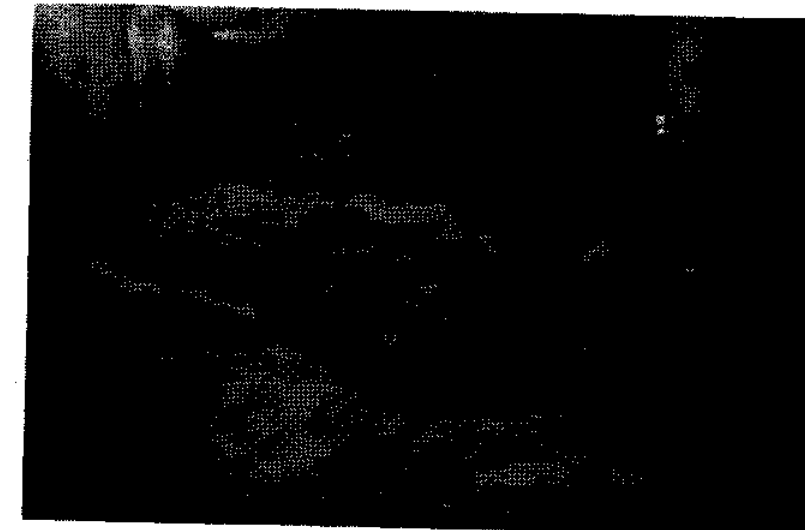
今回は、パトロール活動の中で、2人の仲間の死に出会った。一人は、医療
センター布団小屋裏でひっそりと冷たくなっていた。一人は、四角公園の焚火
の中で全身火傷をおい、救急車で運ばれたが、なくなった。パトロール活動
をしていても手が届かない遠い距離で仲間が死んでいく。死んだ仲間の冥福を
静かに折りたい。

21回越冬パトロール

日付	南	北	山王	医療セ	三角公園	全体数	天気	支援南	支援北	備考
12/25	47	22	14	57		140	晴	40	23	ピラ(越冬突入)
26	43	20	12	75		150	晴(風)	36	25	風がきつく寒い日
27	47	21	17	88		173	晴	35	25	労働者死亡
28	60	22	14	107		203	晴	45	13	一斉日、弁当、ピラ(臨泊)
29	41	21	19	70	90	241	晴	35	12	集中期
30	41	14	22	61	115	253	晴	25	14	
31	38	20	20	160	51	289	雨	40	25	雨でセンターの布団は満杯。ピラ
1/1	47	17	24	96	140	324	雨のち晴	25	15	暖かい日だった。
2	58	16	23	97	187	381	晴	40	10	底冷えのする日。
3	48	15	17	89	108	277	晴	20	10	一斉日、弁当、ピラ(医療労働)
4	89	19	11	68		187	晴	35	30	寒い日。
5	50	21	10	77		158	晴	30	25	厳寒。
6	51	26	13	86		176	晴	30	10	厳寒
7	59	18	17	120		214	晴	15	6	わりと温い。
8	52	22	20	89		183	晴	15	10	底冷えがする。
9	58	21	23	70		172	晴	13	12	たき火で一人死ぬ(四角公園)
10	43	18	14	67		142	晴	15	8	越冬最終日
計	872	333	290	1477	691	3663		494	273	

21回越冬パトロール(周辺)

日付	日本橋	四天王寺	駅、市大	備考
12/28	29	39	38	畜場には野宿者いず。ピラ、弁当
1/3	50	47	39	ピラ、弁当
1/10		57	38	ピラ、弁当、越冬終了



2-b) 越冬期 ('90.12.25~'91.1.11) の救急車の実態

	日時	車体番号	年齢	本籍	出会った場所	患者の状況 発見までの経過
1	90.12.26 AM5:15	西成375				
2	AM5:30 12.27 AM9:37	西成369 西成376	50	愛知	医療センター前 医療センター前 (医相中)	左脇腹痛(10日前) 昨夜から布団敷で
3	PM1:00	西成375	50		医療センター前	左半身のしびれ、口のもつれ
4	PM5:30	西成369	62		医療センター前	
5	PM10:03	西成375			布団小屋裏	昏睡
6	PM10:10	西成369			布団小屋裏	全身けいれん
7	12.28 AM5:15	西成375	47	福岡	布団場	身体のふるえ、右肩の痛み
8	AM5:18	西成369	60	徳島	布団場	B型肝炎、顔面をどつかれた
9	AM5:55	西成375	40	群馬	センター (情宣中)	胃(腹)激痛、目のふちから 頬にケガ、流血
10	AM10:04	西成375			三角公園	額のケガ(倒れていたのを労働者が見つけて呼ぶ)
11	PM3:19	西成369			医療センター前	
12	PM4:55	西成375			市更相前	急性アルコール中毒、 頭部打撲の疑い
13	PM8:04	西成375	50代?		バスの裏	バス裏で倒れていた、意識あり、痛み
14	PM8:40	西成375	48		医療センター前	バス横で転倒、上口唇裂傷約 1cm、止血する
15	12.29 AM8:10	西成369	42	和歌山	認定通り	自転車で転倒、大量の鼻血 頭頂部に擦傷
16	AM9	西成375		福岡	医療センター下で 倒れていた (医相中)	頭のケガ、首の痛み
17	PM10	西成369			仏現寺公園前	泥酔(人バト最中)

搬送先 (入院、外来、転院など)	過去の入院歴	備考	
杏林記念H.P.(外来)			1
杏林記念H.P.(入院) ?	大和中央H.P. 肝臓 加納H.P.(半年前) "	昨夜、杏林でいろいろ検査し入院になったが、朝、急に追い出された	2
富永脳外科H.P.(?)			3
山本第一H.P.(入院) 看護婦と喧嘩になり布団敷へ	26日、市更相から杏林H.P.へ搬送、夜にトンコ	出会いの家...酒却下 医療相談...酒却下 (27日)	4
大和中央H.P. PM10:07 死亡確認		台車、犬2匹 全く蘇生術を施されず	5
山本第一H.P.(?)			6
杏林記念H.P.(外来)	大和中央H.P.		7
杏林記念H.P.(外来)			8
杏林記念H.P.(入院)		1月9日、自己退院	9
杏林記念H.P.(外来)			10
大和中央H.P.(外来)			11
大和中央H.P.(入院) →翌日自己退院		医相中、市更前で倒れていると知らせを受ける。大部飲んでた様子	12
杏林記念H.P.(外来)			13
杏林記念H.P.(外来)			14
杏林記念H.P.		本人が診察拒否、アパートへ帰る	15
山本第三H.P. →協和H.P.転送(入院)		協和H.P.に入院していた、というのですぐに転送	16
大和中央H.P.			17